

## 「WBC 侍 JAPAN の興奮は未だ冷めやらず」

令和5年4月17日

大谷翔平投手が、アメリカ代表のトラウト選手を三振に打ち取り、WBC で優勝した瞬間は多くの人が興奮をしたのではないのでしょうか？私もその一人ですが、実は、タイトルにある「興奮は未だ冷めやらず」とは、日本が優勝したことではなく、私の中では、メキシコとの準決勝のサヨナラの場面のことです。



1点を追う9回裏の攻撃で大谷選手が二塁打で出塁し、その後、吉田正尚（まさたか）選手がファールボールで出塁しました。その時、吉田選手が次の打者の村上宗隆選手にジェスチャーで示した「信頼」と村上選手を最後まで信じ使い続けた栗山監督の「信念」に感動し、未だ興奮しているのです。

ネットでは去年のプロ野球での大活躍により、「村上様」として流行語大賞をも受賞したのに対し、今回のWBCでは思うような成績が残せず、メキシコ戦では、サヨナラ打を打つまで三連続三振。打率2割によって「ただの村人だ」と揶揄されていました。WBCで、国内の野球ファンから「優勝」の期待を背追い、自身も意気込んで臨んだ大会。自分の打撃不振によってチームに迷惑をかけていることは百も承知。その上でのファンからのバッシング。その辛さは、半端なものではなかったはずですが。私なら、自信を持って「心が折れて」いたと言えます。（選ばれるはずありませんが）



WBCメンバーの多くの人が語っていたことは、村上選手が、結果が出ない中で、誰よりも多くバッシング練習に励んでいたとのことです。バッシングと重圧の苦しみの中でも必死に練習に打ち込む村上選手を見ていたからこそその「村上、お前で決めるよ」の吉田選手の指さしポーズだったのです。また、村上選手を信じ最後まで使い続けた栗山監督の「信念」も見過ご

すことができません。頭の中では、優勝が半ば義務付けられているWBCで、その優勝を果たすために、村上選手をスタメンから外すか、メキシコ戦でのあのサヨナラの場面では代打を送るか考えたはずですが。仮に、栗山監督の村上選手への「信頼」が揺らいでいたなら、使おうとする「信念」も揺らぎ、代打を送ることによってサヨナラ勝ちとは違う結果となり、日本の優勝もなかったかもしれません。塁上を走る村上選手の表情を見ると、喜びの裏に苦しみがあったことが感じとれます。また、村上選手を出迎えた栗山監督の表情は、私には、喜びというより泣き顔のように見えます。私達教師は、何かに頑張っている子ども達が、望ましい結果が出ない時、どのように接してあげればいいのかを吉田選手と栗山監督の姿から学ぶことがあるのではないのでしょうか。日米で活躍した元プロ野球選手のイチローさんの言葉に次の言葉があります。

「結果が出ないとき、どういう自分でいられるか、決して諦めない姿勢が何かを生みだすきっかけをつくる。」・・・子ども達にも、自分にも言い聞かせたい言葉の一つです。

